
Crystal Adventure

りす君

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

C r y s t a l A d v e n t u r e

【Nコード】

N 9 9 0 3 C

【作者名】

りす君

【あらすじ】

周りは濃いキャラばかりなのに、何故か日常に対して物足りなさを感じている主人公、麻間。彼が今、欲しているのは「非日常の世界」。そんな願いがまさか叶うとは、夢にも思わなかった麻間。が、彼が見た非日常は、思っていたビジョン（想像）と、かなりの食い違いがあった。

1：始まり（前書き）

冒険物の小説に挑戦しようと思います。改行抜け、誤字脱字、句読点忘れが多々ありますので、その部分は予測してお読み下さい。

1：始まり

日々の生活に疲れたりすると、時々こう思う。

「非日常を過ごしてみたい。」

まさか、本当にその体験がいきなり出来るとはこの俺でも思わなかった…。

?????

「……………きろー！おき……………ぞうー！」

誰かが叫んでいる。

（バシッ！）

?????

「痛っ！ー！」

?????

「起きろ、小僧！ー！」

????の心の声：

「お、お袋かよ…。」

?????

「今日から新学期でしょっ！初日から遅刻したらタダじゃおかねえぞー！」

?????

「ひいー？！」

(ボタンッ！)

????

「行つてきまーす！！」

ふう…生殺しされる所だった。

あつ、自己紹介がまだだった。俺は、麻間^{あさま} 峻弥^{たかや}。高3であるが…
自覚がない。

さつき俺を生殺しようとしたのは、俺の母親である麻間^{あさま} 元子^{もとこ}。
通称、殺し屋^{げんこ}元子。体格が男性プロレス選手並み？いや、それ以上
だな。専業主婦の筈だが何故か筋骨隆々で、彼女が本気で繰り出し
た拳は、岩石や鉄筋まで破壊する程。あんなの喰らったら、真人間
は地の果てまで吹っ飛ばされる。

俺の親父である麻間^{あさま} 信彦^{のぶひこ}なんか、会社が終わると真っ直ぐ家に帰
つてくるし。入社後に一度も同僚と酒を酌み交した事が無いらしい。
俺は、こんなハチャメチャな両親を持ちながらも、何故かこの日常
に物足りなさを感じていた。

(キーンコーン…)

麻間：

「はあ…、また遅刻だ。あの人に、また三途の川を見せられるよ…。」

「

俺はグロッキーになりながら、教室へ向かった。

(ガラガラガラ…)

麻間：

「遅くなりましたあ…っ?!」

(ヒュンッ)

麻間：

「ひいつ?!」

(バキッ…ボロボロ…)

目の前に猛スピードで、チョークが飛んできた。何とか反射神経が発揮され避けたが、あんなのを喰らったらある意味痛いだろう。こんなピンポイントで飛ばしてくるのは、あの人しかない。

????:

「はぁ…またですか、麻間君？」

麻間：

「…委員長、すいません。」

チョークを飛ばしてきたのは、俺のクラスの委員長である条王院菜々佳。じょうおうえん ななか通称、恐怖の女王。成績優秀、容姿ロリ、規律厳守で俺のクラスの委員長を任されている女子。無遅刻、無欠席、無早退の彼女は、学校などの規律を破った者には容赦しない恐ろしい人物である。顔が電腦街で喜ばれるロリ顔なんだから、性格が優しければさぞかしモテるだろうに…。

条王院：

「何か言いました？」

麻間：

「いえ、何も…。」

麻間の心の声：

「コイツ…読心術でも会得してるのかよ!」

朝から大変な目にあつた。

今日の全ての授業が終わると、俺は一目散に教室を抜け出した。理由は、今月の掃除当番に俺が振り込まれていて、面倒臭さから逃げ出そうとしたのだ。しかし…、神様も性格が悪いなあ。

条王院：

「あれ、麻間君。どこへ行くのですか？」

後ろから委員長の声が聴こえたと同時に、委員長に服従している男子数人が周りを囲み、服を掴んで、結局俺は教室に連れ戻された。

麻間：

「うわっ！！」

条王院：

「…麻間君、良い度胸をしてますね？」

委員長の顔は、明らかに怒りを堪えている。まるで、噴火直前の活火山のようだ…。

麻間：

「すいません！すいません！」

明らかに、見透かされる平謝り。だが、これが思わぬ方向に進むとは…。

条王院：

「…解りました。今日のサボりは、菜々佳が見なかった事にします。」

┐

麻間：

「…へっ？」

何と、今日は委員長に何故か俺は許して貰えたのだ。あまりの驚きに、拍子抜けしてしまった。しかも、何故か委員長の顔が紅潮している。怒りのあまりにそうなったのか？それとも、熱でもあるのか？

条王院：

「し…失礼。」

そう言っていると、委員長はそそくさと教室から出ていった。

麻間の心の声：

「…何なんだ？」

下校途中、俺はいつものルートで帰ろうとしたが思わぬ展開（ただの道路工事）により、遠回りのルートである電車の高架下を歩いていた。

周りは、水田や果樹園などしかなく、高架下という場所の影響で少々薄暗い。

麻間の心の声：

「はぁ…疲れた。帰って、ゲームでもすっかな。」

下校時刻は、丁度スーパーのタイムサービスなので、あの鬼畜ババア（元子）は飛び付いて行っているはず。あの人が買い物に行ったら、夜まで帰って来ない。なので、悠々とゲームする事が出来る。まさに、鬼の居ぬ間に洗濯である。

麻間の心の声：

「あー、かつたるいなあ。」

そう思いながら歩いていると、前方にうつすらと人影が見えた。見えたと思った瞬間、人影から眩い光が放たれた。

麻間の心の声：

「な、何だ？」

不思議に思い、近付いてみると…。

麻間：

「っ?!…う、嘘だろ？」

何と、人影の向こうに見た事もない奇妙な生命体がいたのである。

2：守護神

さつきから、俺の足は竦^{すく}んでいた。何故なら、俺の目の前には一人の人間と、奇妙な物体が交戦しているのだから。

????：

「チャージー!!」

いきなり人間の方が叫び、手に持っている棒みたいな物を天高く上げた。しばらくすると、その棒にバチバチというけたたましい音と共に、青白い屈折光が集まってきた。

????：

「フハハ…そんな攻撃、無駄だと言ったはずだ!! マッドシールドー!!」

麻間の心の声：

「しゃ、しゃべりやがった!? あの奇妙な物体!!」

(ゴゴゴゴゴッ!ー!)

奇妙な物体が叫ぶと、そいつの目の前に地面から泥が上へ上へと上がっていき、やがて集まって大きな泥壁になった。

????

「ボルテックシューティング!!」

(ジババババッ!ー!)

あの棒に集まった青白い屈折光が、瞬く間に相手の方向へ差してい

った。しかし、その攻撃はアイツの泥壁に遮られてしまった。
その時、一瞬だけ太陽光が二つの間に差した。そして、俺はよう
やく…あの奇妙な物体の詳細を知る事が出来た。

麻間の心の声：

「な…何なんだ、あの怪獣？」

体は黄土色で、四つん這^ばいになっている。更に、とても長い舌を
出して口の周りを舐め回している。動物で表すなら、カメレオン
と大トカゲが合体した奴…。

?????

「マッドサラマンダー！！ 何故、現実世界まで現れたのよ！？」

どうやら対立しているのは、女とマッドサラマンダーとか言う怪物
らしい。

マッドサラマンダー：

「フツ…。ドウムディザスター様がどうしても、テメエが所持
してる“アレ”を欲しがっているようだね。」

麻間の心の声：

「ドウム…ディザスター？」

?????

「ふざけないで！！ あなた達にあげる訳にはいかないわ！！」

マッドサラマンダー：

「ふざけてなんかいねえよ。貴様みたいな小娘が持てる代物じゃ
ねえんだよ…フォーチュンクリスタルはよ！！」

?????

「絶対に…絶対に渡してたまるもんか！！ アクアブリザード！！」

女がそう叫ぶと、マッドサラマンダーの上に、大きくて厚い、どす黒い雲が現れ、針千本のように容赦なくマッドサラマンダーに降り注いだ。

マッドサラマンダー：

「だから、無駄だと言っただろ！！ アイアンウォール！！」

マッドサラマンダーが叫ぶと、今度は鉄の壁が出てきて女の攻撃を防いだ。

???：

「くっ！！」

マッドサラマンダー：

「フハハハッ！！ 無駄な攻撃ばかりやがって。だが、俺は防

御だけが専門じゃねえんだよ！！」

???：

「っ?!」

マッドサラマンダー：

「死ねえー、小娘！！ マッドカウンター！！」

マッドサラマンダーの体が赤く染まり、女に超高速で突進していた。

???：

「っ?! ぶ、プリズムガードっ！！」

麻間：

「あつ、危ないっ！！」

俺は大声で叫んだが…間に合わなかった。

俺の目の前で女はマッドサラマンダーに追突されて吹き飛び、高架

橋の支柱にぶつかり中に食い込んだ。 その時、女の頭に被さって
いたフードが外れ、顔が見えた。
その顔を見て瞬間、俺はフリーズした。

麻間：

「…いつ…委員長?!」

その女は紛れもなく、いつも俺を疎ましく思っているクラスの委員長…条王院 菜々佳だったのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9903c/>

Crystal Adventure

2010年10月10日00時31分発行